

社会資本総合整備計画

つるおかさんのうちく
鶴岡山王地区都市再生整備計画

やまがた つるおかし
山形県 鶴岡市

平成24年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	ヤマガタケン 山形県	市町村名	ツルオカシ 鶴岡市	地区名	ツルオカサンクワナ 鶴岡山王地区	面積	20 ha
計画期間	平成 22 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 22 年度 ~ 平成 23 年度				

目標							
大目標: 中心商店街の再整備とまちづくり活動の活性化により商店街の活性化を図る。							
目標	1 空き地・空き店舗の再整備とみち広場の整備による賑わいのあるまちづくりを進める。						
目標	2 まちづくり協定に基づきまちづくり活動事業を継続的に実施し、商店街への新規参入者を促進する。						

目標設定の根拠							
まちづくりの経緯及び現況							
<ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡市は酒田市とともに庄内地方生活圏を代表する都市であり、古くは城下町として発展してきた。近年は郊外で良好な居住環境の創出が図られる一方、中心市街地では居住人口の減少や店舗・事業所の移転が進むなど空洞化が起きている。また、高齢者の数や人口に占める割合の増加が予想されている。 ・平成13年に公表された「鶴岡市都市計画マスタープラン」では、無秩序な都市の拡大を防止し、人口規模に応じたコンパクトな都市の形成を目指し、その手段として平成16年5月に線引きを実施し、市街地中心部への公共機関の再集積を図り空洞化を抑制し、当該地区は、「庄内地方拠点都市地域基本計画」(平成5年策定、平成11年変更)において、重点的に整備する拠点地区に設定されている「中心市街地」内にあり、古くからの街の賑わいを取り戻しつつ、同時に地域活力を生み出す原動力となる拠点づくりが期待される地区である。 ・「歩いて暮せるまちづくりモデル調査事業」(平成12年度)を実施しているほか、10年前から商店街独自のナイトバザールを実施し、毎回多くの市民から参加があり賑わっている。 ・郊外の大型店に集客が移動し、商店街への来訪者が少なくなったことや、後継者がいないことから、近年閉店する店が出ており、今後その傾向が続くことが予想されている。 ・平成20年7月に「鶴岡市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、山王地区及びその周辺でも活性化事業を実施している。 ・平成20年にホテルが再開し商店街の新たな会員となるなど、新規参入者の動きがあるほか、平成22年5月には山王地区にあった工場跡地に映画館が開館する予定になっており、商店街の活性化に結びつく新たな再開発の事業も動き出している。 							
課題							
<ul style="list-style-type: none"> ・ナイトバザールなどイベントを実施しているが、個店の売り上げアップに直接つながっていない。 ・後継者がいないため、将来的に店舗を閉店する可能性がある組合員がある。 ・魅力的な空間・店舗がないこと、利用しやすい駐車場がないことなどから、山王商店街への来訪者数が減少している。 ・H17～H21年度に実施した「鶴岡市街地区都市再生整備計画」において計画した山王商店街の歩道のバリアフリー化、無電柱化は完了したが、車道部の整備儀未完成であり「みち空間」としての道路空間整備が未完成となっている。 ・H21年度までに実施したまちづくり交付金事業により、まちなみ環境を向上させる行灯照明を整備したが、まちづくり協定に基づく個店のファサード整備が今後の実施課題となっている。 							
将来ビジョン(中長期)							
<ul style="list-style-type: none"> ・山王商店街のこれまでの活動実績をふまえ、周辺地域のまちづくり事業との連携を強め、商店街再生のモデル形成をめざす。 ・官民一体となって高質な空間形成をはかり、魅力的な商店街への再生をめざす。 ・地域に根ざした商店街づくりを推進し、周辺にある農山漁村地域と連携した庄内の食文化の情報発信拠点形成をめざす。 							

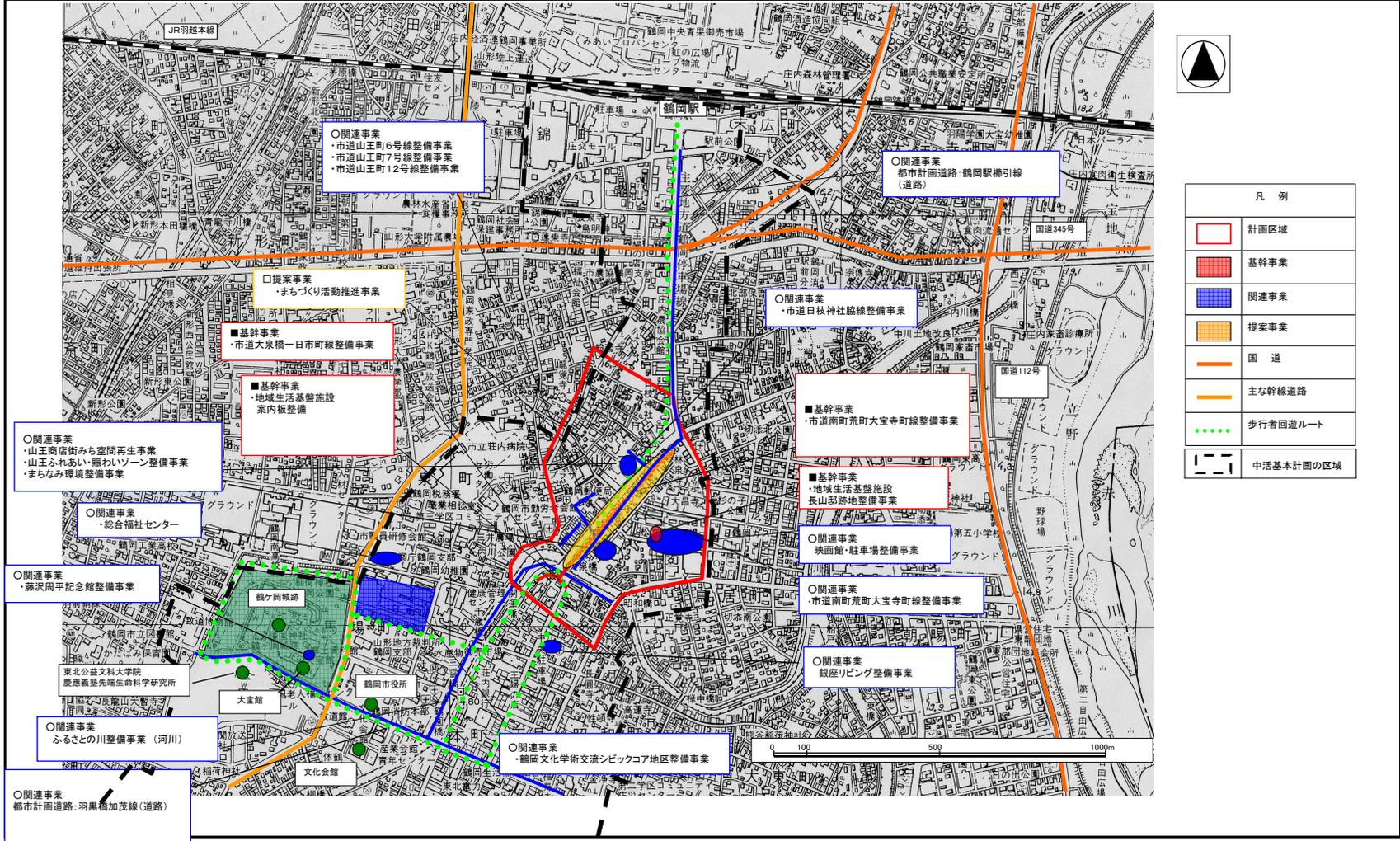
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
				基準年度	目標年度	基準年度	目標年度
山王通りの歩行者数	人	基準年(平成9年)からの山王通りの歩行者通行量減少率を抑制することによる目標年度における歩行者数減少の抑制	拠点整備と道路環境整備による歩行者数減少率の抑制	133人	H20	104人	H24
山王商店街の店舗数	軒	山王商店街店舗数の増加	ゾーン整備と道路環境整備による新規店舗の増加	53軒	H21	54軒	H24

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>■都市機能の再整備と賑わいのあるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡駅から中心商店街へ続く安全で快適な歩行空間ネットワークを完成させて、周辺商店街で実施しているまちづくり事業と連携した、商店街の活性化を図る。 ・中心市街地に点在する歴史的資産、観光名所・施設を歩いて回遊するルートに案内板を整備し、町中観光の振興を支援する。 ・山王まちづくり協定に基づく商店街のまちづくりを支援するため、道路空間の整備を実施する。また、まちづくり協定に基づく建て替えを行い道路空間と一体的な街並みを創出する。 ・地区内に平成22年度5月開館予定となっている「まちなか映画館」整備と連携し、山王商店街への来訪者増加をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ①市道南町荒町大宝寺町線整備事業(基幹事業/道路) ②市道大泉橋一日市町線整備事業(基幹事業/道路) ③案内板整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設) ④長山邸跡地整備(基幹事業/地域生活基盤施設) ⑤市民ワークショップ(提案事業/まちづくり活動支援事業)
<p>その他</p> <p>・「先端性と伝統性が一体となったまちづくり」「持続性のある中心商店街の形成」「歩いて暮らせるまちづくり」を目標に、市民、事業者等の意見を反映した「鶴岡市中心市街地活性化基本計画」(平成20年7月)の策定や「鶴岡市街地区年再生整備計画」(平成17年度)を策定し、まちづくり交付金事業をH17年度～H21年度に実施している。中心市街地の各種プロジェクトにおいては、市民活動としてNPO「庄内市民活動センター」を中心とした各種事業や、商店街独自のナイトバザール等、またTMOが中心市街地区で様々な活動を行っているほか、鶴岡市の「コンパクト交流都市アクションプラン」、中心市街地活性化策を研究・検討している。鶴岡山王地区都市再生整備事業は、これら多様な主体の活動を支える、基盤整備の一環であり、それらの連携により、様々な主体が活動しやすい魅力ある中心市街地を築き上げるものである。</p> <p><対象地区の位置付けが示されている上位計画計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ①庄内地方拠点都市地域基本計画 ②鶴岡市総合計画 ③鶴岡市都市計画マスタープラン <p><対象地区に関わる関連計画・構想等></p> <ul style="list-style-type: none"> ①鶴岡市中心市街地活性化基本計画 ②歩いて暮らせるまちづくりモデル調査事業 	

鶴岡山王地区(山形県鶴岡市)整備方針概要図

目標	空き地・空き店舗の再整備とみち広場の整備による賑わいのあるまちづくりを進める	代表的な指標	山王通りの歩行者数の減少率低減による歩行者数 (人)	133 (H20) → 104 (H24)
		山王商店街の店舗数 (軒)	53 (H21) → 54 (H24)	



区域の設定根拠

中心市街地活性化計画のエリアの中で、重点的に実施しなければならない山王地区を実施区域として設定することにより、緊急の課題となっている中心市街地の活性化および地域振興を図るための施策を効果的、集中的に実施し、事業効果の効率的発現が見込めるように配慮した。